

しまなみグリーン・ツーリズムによる交流活動

～地引網体験受け入れに取り組んで～

渦浦漁業協同組合女性部
喜田 ヒサ子

1 地域の概要

しまなみ地域は、愛媛県の北部に位置し、西瀬戸自動車道（通称しまなみ海道）沿いの今治市の一部と、上島町の瀬戸内海に浮かぶ島々で構成されている。

年平均気温は 15.4℃、年間降水量 1,142 mm で、夏は潮風が心地よく、太公望には人気の地域である。（図 1）

2 漁業の概要

渦浦漁協は、しまなみ海道の今治から最初の島、大島にある。漁場となる潮流の速い来島海峡では、マダイ、カサゴ、ヒラメ、キジハタなどの新鮮でおいしい魚がたくさん獲れ、一本釣り漁業をはじめ、はえ縄、小型底引き網、刺し網、イカ巣漁、ローラごち網など、多種多様な漁業が行われている。

しかしながら、漁業者の高齢化や後継者不足など多くの問題を抱え、厳しい状況が続いている。（図 2）

3 研究・実践活動取組課題選定の動機

私が漁師の妻となったのは今から 30 年前だった。ドックマンだった夫がオイルショックのあおりを受け造船所を辞め、私の父の小型底引き網漁業を受け継いだ。私は、昔、父がイワシ網漁の網元であったことから、よく魚を食べていたが、中でも、七輪で焼いて食べたピチピチとしたイワシはとても美味しくて、その味を忘れられなかった。そこで、日頃から、地元でとれた新鮮な魚を都会の人にも、是非味わってもらいたいと思っていた。

そんな中、昭和 61 年に町おこしの会で、地域の活性化を図るために、昔の漁を再現した地引網をやろうという声があがった。また、獲れた魚を使った昼食の提供も併せて行おうということになった。最初、島でやる地引網ではあまり人が来ないのではないかと心配していたが、募集したところ、200 人以上もの参加があり大盛況となった。その後は、地域のイベントとして口コミで徐々に来てくれる人が増えたが、知名度としては低いものだった。（図 3）

ちょうどその頃、しまなみ地域で農業関係の人達で始まった都市住民との体験交流活動「しまなみグリーン・ツーリズム」を農林漁業者が連携して取り組もうという話があり、この「地引網体験」も体験交流の 1 つのメニューとして取り上げてもらい、一緒に活動していくことになった。グリーン・ツーリズムに参画したことにより、地引網を知らない都会の人たちにも、より広く PR できて、これまで以上にたくさんの人が参加してくれるようになった。夫も、「地引網保存会」を立ち上げたものの、当初は、本業の漁のかたわらで手伝っていたため余力が入っていなかったが、今では会員も 20 名と

なり、共に協力して活動している。(図4)

4 研究・実践活動の状況及び成果

(1) 地引網体験の内容・お客様の反応

地引網体験は、大島の南側にある南浦キャンプ場の浜で行っている。潮の干満を見計らいながら、まずは簡単な説明からスタートする。都会から来たお客様は「あっ、海だ。海のおいがする！」と言って、透き通った海と潮風にふれ、きれいな砂浜をはだして踏みしめながら大はしゃぎする。地引網が始まると、参加者は2班に分かれ、かけ声とともに力いっぱいロープを引き合う。網が上がってくると、どんな魚が獲れたのかとみんなの目が魚に集まる。魚の周りに群がり、ピチピチと飛び跳ねている魚を触り、時には歓声をあげる。獲れた魚は、すぐに刺身、バーベキュー、澄まし汁などに調理する。(写真1)

獲れたての新鮮な魚をその場ですぐに食べてもらうので、刺し身はプリプリで、魚を普段からよく食べている参加者からも、思わず「こんなおいしい魚今まで食べたことがない！」との声があがり大好評である。また、参加者には魚のさばき方を見てもらったり、興味のある子どもには包丁を持って実際におろしてもらったりしている。この時、参加者からは魚の名前や調理のコツを聞かれたり、食べ方を紹介したりといろいろな話ができ、にぎやかな料理教室になっている。参加者全員が瀬戸内の豊かな自然の中で、新鮮な魚料理に舌づつみを打ち、楽しい一日を満喫している。(写真2)

「地引網体験」は3月～11月の9ヵ月間実施している。料金は、小学生以上、1人2,600円(内キャンプ場使用料300円)となっており、団体客は35名以上を原則に受け入れている。参加者数は、平成17年は800人、平成18年は1,200人となっている。東京や大阪など県外からの修学旅行生や遠足、学校行事などで毎年来てくれる団体や身体障害者団体の利用もある。また、去年はボランティア活動で、福山大学生がスタッフとして協力してくれた。

(2) 漁協女性部の活動と体験交流

海を守るための活動や環境保全への取り組みは、私たち海に携わる漁業者の大切な役割のひとつであり、漁協女性部では、長年、海岸清掃活動や石鹼使用推進運動に取り組んでいる。地引網体験では、都会の人に島の良さである美しい青い海を実感してもらうだけでなく、海岸に打ち上げられたゴミの多さを見てもらい、美しい海を守っていくことの大切さや、地域住民の人達と協力しながら海岸を清掃していることなどを話している。私達にとって海の環境を守っていくことが、いかに大切で大変なことかを理解してもらうためである。また、昼食や料理教室で、瀬戸内のおいしい魚を自らが調理し味わってもらうことで、「魚」を身近に感じ、好きになってもらえるように魚食普及にも努めている。

(3) 農業者など他産業者との連携

私たちが参画している「しまなみグリーンツーリズム推進協議会」には、活動実践組織として現在3つの部会がある。点在する産直市の連携を深め、ブランド化を図る「産直市連絡会議」、地引網や潮流体験など体験学習の実践者で構成された「体験学

習連絡会議」、農家民宿を目指す「農家民宿の会」となっており、体験メニューは 75 種類と豊富である。また、各部会活動の企画支援のため、活動実践者代表 15 人から成る「企画運営会議」が組織されている。私はそのスタッフの 1 人として会議に参加し、漁家の立場で、しまなみの交流活動推進のためのアイデアを出している。(写真 3)

この会議に参加するようになって、他の島の農業者と知り合い、同じ 1 次産業に携わるものとして「ともにガンバっていこう！」という仲間意識も生まれてきた。また、農家女性組織がイベントを開催するときには、漁協女性部で販売している「じゃこ天」の原料となるすり身を提供しており、お互いの連携がより一層深められてきた。(写真 4)

5 波及効果

地引網体験をグリーンツーリズム協議会が運営しているホームページで紹介したり、今治市が行っている事業に取り入れてもらったりしたことで、取材が増え、テレビや情報誌等で紹介されることが多くなり、全国への情報発信とリピーターの確保につながった。(写真 5)

地引網の準備作業は大変で、参加者が多い時には、漁協女性部や青年会の手を借りるなどして、地域の人達の協力を得ながら行っている。特に、天候が悪い時や海がしけている時などは心配で、無事に終わって参加者の皆さんに「よかった」、「楽しかった」と喜んでもらったときは感激もひとしおで、とても満足感を覚えている。

参加された人達と身近に話をし、交流することは、私達にとってとてもよい機会である。これからも、参加者の皆さんに喜んでもらえるように新しい工夫を取り入れ、手間を惜しまず心のこもった体験にしていこうと思う。

漁業も同じで、魚をとるだけでなく、消費者の皆さんにどうしたら満足してもらえるのかを考え、提供していくことが大切である。最近では、地元のおいしい魚を、まずは地元の人たちに味わってもらいたいと思い、愛媛県の実施する「地産地消・愛あるサポーター」への登録を行った。地産地消活動を通じて、食の安心・安全への関心を深め、すこしでも販路拡大につながればと思っている。(図 5)

漁業者も経験主義から経営主義に変わらないとやっていけないと考えるようになった。地引網体験交流が軌道に乗ってきたことにより、新たな現金収入が得られ、我が家の経営にもゆとりがでてきた。また、この活動が地域の宝物体験として浸透し、定着することで、しまなみのイメージアップにつながり、全国からの観光客を呼び込めればと願っている。

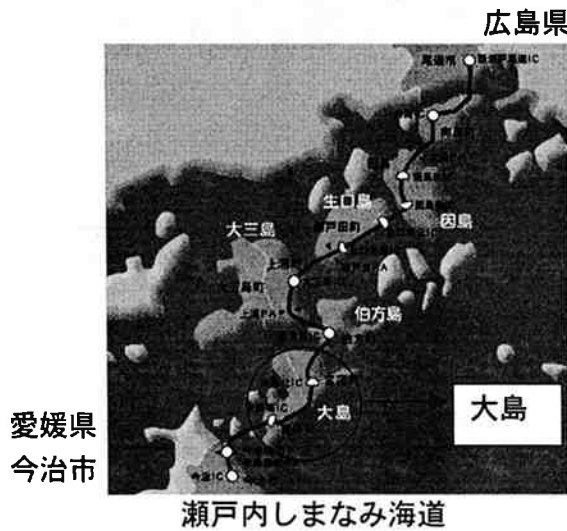
6 今後の課題や計画と問題点

「地引網保存会」を次の世代にどう伝承していくかに加え、漁業者として貴重な資源環境をどう引き継いでいくかが大きな課題だと思っている。漁業に対する理解を、より多くの人たちに深めてもらい、島ならではの人情味豊かな地引網体験になるようガンバっていきたいと思う。そして、「しまなみグリーンツーリズム協議会」の活動は、しまなみ地域だけにとどまらず、「四国グリーンツーリズム八十八か所マップ」作りを始めるなど、県内、四国各地への広がりを見せている。また、協議会を NPO 法人として自主

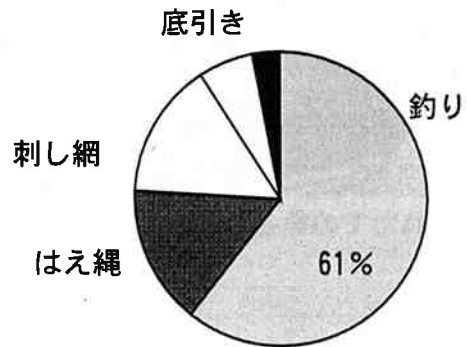
的な運営にするための準備も始まった。

これからも体験交流活動を通じて、漁村の活性化を図り、みんなで楽しく夢と生きがいを追いかけて、活動を続けていきたい。

(図1)



(図2)



瀬戸内しまなみ海道 瀬戸内しまなみ海道 瀬戸内しまなみ海道

(図3)



(図4)



(写真1)



地引き網体験

(写真2)



とれたての魚をバーベキューに



魚をさばいてみよう

(写真3)



しまなみグリーンツーリズム推進協議会

(写真4)



渦浦漁協女性部加工品「島じゃこ天」

(写真5)



テレビ取材の様子

(図5)



愛媛県「地産地消・愛あるサポーター」登録